

大学基準協会からの「大学評価ならびに認証評価結果」に対する  
対応の進捗状況について(2009年3月末現在)

## 大学に対する指摘事項及び勧告などに対する対応

2008年度に受審した大学基準協会の大学評価ならびに認証評価の結果、2009年3月に同協会から「大学評価結果ならびに認証評価結果」により、以下のような「勧告と助言」を受けた。これらに対しては、「改善報告書」を作成し、2011年7月までに答申することが義務付けられている。

自己点検・評価委員会では、「改善報告書」の提出までの間、各担当者から毎年度末に対応の進捗状況の提出を求め、状況を把握するとともに改善に取り組むこととしている。

2009年3月の時点において、改善は概ね順調に進行しているが、年次進行で取り組まなければならない事項もあるため、継続的に取り組んでいる。

「大学評価結果ならびに認証評価結果」

[勧告]

1. 芸術学部の入学定員に対する入学者数比率（過去5年平均）は1.27であり、実技科目の多い芸術系の学部としては高いので、是正されたい。

[助言]

1. 学生募集要項や学生便覧の中に工学研究科の理念や目的に関する記載がなく、学内に広く周知されているとは言えず、改善が望まれる。
2. 工学研究科の目的である「複眼的な素養」や「国際的に通用するコミュニケーション能力」の育成に関して、特に後者については研究センターを通じて実質的に行われているが、具体的な指導体制やカリキュラムが必ずしも明示されておらず、改善が望まれる。
3. 工学研究科、芸術学研究科ともに、研究科独自に行うFD活動については、現時点では組織的に行われているとは言えないことから、研究科として組織的に取り組んでいくことが望まれる。
4. 工学部・工学研究科では、交流協定を基にした海外留学制度等についてより一層の充実が望まれる。国内においては、大学周辺地域での協定に基づく単位互換制度が整備されているが、学内からの利用者はまだ少ないという問題がある。国内外の教育研究交流については、工学部・工学研究科としての基本方針やカリキュラムの中における位置づけの明確化などについて、組織的な検討の継続が必要である。
5. 工学部は学科改編中であり、一部の学科で在籍する学生の年次が異なるものの、入学定員に対する入学者数比率は過去5年平均で1.25である。学科別に見ると1.40を超える学科も2学科あり、改善が望まれる。
6. 工学部の収容定員に対する在籍学生数比率が、学部全体で1.26であり、学科別に見ると、電子情報工学科では1.63の高きに及んでおり、ほかに1.30を上回る学科も4学科ある。この状態は、改組前の前身学科の学生が残っていることを勘案しても、早急に改善することが望まれる。
7. 工学部の指定校推薦入試は、募集定員100名に対し入学者が336名（2006（平成18）年度入試）と、元々の募集枠の3倍を超えており、早急に是正することが望ま

れる。

8. 芸術学部の収容定員に対する在籍学生数比率は 1.23 であり、実技科目の多い芸術系の学部としては高いので、改善が望まれる。
9. 厚木・中野両キャンパスともに、バリアフリー化に向けての取り組みが十分ではなく、キャンパス整備計画等の中で早急に改善していくことが必要である。
10. 厚木キャンパスの中央図書館は、同キャンパスの学生収容定員に比して閲覧座席数が少なく (9.2%)、改善が望まれる。
11. 中央図書館 (厚木キャンパス) の土曜日の開館時間は、9時10分～17時00分であり、土曜日の最終授業終了時刻18時10分よりも早いので、改善が望まれる。
12. 財務三表の公開については、広報誌等に財務三表を掲載し、少なくとも学生、保護者に対しては配付して公開することが望まれる。